

平成26年9月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成26年9月30日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	15時00分	
	閉会	16時20分	
3 出席委員	委員長	曾田佳代子	
	委員	塩田澄子	
	委員	奥津晋	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	渡辺和夫	教育次長	植田朋哉
統括審議監(企画調整担当)	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	山口啓二	教育企画総務課長	長瀬尚樹
人事財務課長	荻野拓志	指導課長	堀井博司
指導課教育支援担当課長	山崎克磨	指導課課長補佐	平井秀尚
生涯学習課長	安友公夫	生涯学習課課長補佐	安東信哉
スポーツ振興課	畑太志	こども企画総務課次世代育成室室長補佐	中吉浩一郎
事務局(教育企画総務課課長代理)	赤野政治	事務局(教育企画総務課副主査)	黒住亜紀子
5 議題及び結果			
報告第33号	専決処理の報告(平成26年度岡山市一般会計補正予算案(第2号)案のうち、スポーツ振興課分の教育費予算案への同意について)	承認	
報告第34号	専決処理の報告(平成26年度岡山市一般会計補正予算案(第2号)案のうち、教育委員会分の教育費予算案への同意について)	承認	
第26号議案	平成27年度以降の土曜授業の方針について	原案可決	
6 教育長等の報告[平成26年8月9日(土)～平成26年9月19日(金)]			
8/16～17	イングリッシュビレッジ	こども企画総務課	
8/17	親子環境学習サマースクール Bコース	生涯学習課	
8/20～22	犬島ESDキャンプ	生涯学習課	
8/22～25	シェアリングネイチャーキャンプ	こども企画総務課	
8/24	ジュニアオーケストラ第50回定期演奏会	こども企画総務課	
8/30	親子環境学習サマースクール②	生涯学習課	
9/14	少年自然の家まつり&家族ふれあいフェスティバル	生涯学習課	

<p>塩田委員 次世代育成室室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ イングリッシュビレッジについて説明を願う。 ○ 昨年までは犬島自然の家で行っていたが、人数を増やし少年自然の家で行った。50人募集し44人参加、応募は157名であった。外国人20名、高校生や学生ボランティアを含め1泊2日で主に寸劇(スキット)を中心に外国語で話すということを行った。他には自然体験や雨の時は室内で外国人とダンスをするなど班ごとの活動を行った。アンケートでは外国の方と話せて良かった、これからも外国語を使っていきたいなどの意見があった。
<p>塩田委員 次世代育成室室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 応募者が約150人で参加確率は3分の1だが、リピーターがいるときなどは考慮しているか。 ○ リピーターは何人かいた。5年生で応募して6年生で受かったという人もいる。11月にも日帰りで旧福谷小学校で行うことにしている。
<p>委員長 次世代育成室室長補佐 委員長 次世代育成室室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネイティブの方はどういう方か。 ○ 東南アジア系、アメリカ、オーストラリア、ジャマイカなど。 ○ 応募をかけるのか。 ○ 中国学園で外国人講師のつてを頼って選んでいただいている。また、プログラムの一つに国際交流ということで、今年は4カ国、アメリカ、ウズベキスタン、ネパール、ベトナムの方に来ていただいて、その国の文化を紹介してもらった。
<p>奥津委員 生涯学習課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャンプについてそれぞれ説明を願う。 ○ 犬島ESDキャンプは2泊3日で犬島で行った。募集人員は100名であったが44名参加と少なかった。原因はグループでの申し込みが多かったがグループ単位の抽選はしておらず、グループの一員が抽選もれになるとグループ自体が止めるという傾向があった。来年は工夫してより多くの方が参加できるようにしたい。内容はESDということで、シーカヤックに乗って直接海を体験したり、海岸の清掃、水中生物観察など時間をかけて行った。
<p>奥津委員 生涯学習課長 次世代育成室室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定員は100名で、応募は百数十名いて抽選をし、もれた人がいるとグループ全員がキャンセルしたということか。 ○ そうだ。 ○ シェアリングネイチャーキャンプは、昨年度までチャレンジハートキャンプという6泊7日で行っていたキャンプの代わりということで、少年自然の家主催により3泊4日で行った。昨年は6泊7日と長かったが、少年自然の家の勤務の関係上、3泊4日に加え、ポストキャンプということで10月、11月、12月に日帰りで1回ずつ行う予定としている。今回の参加状況は40名募集のところ、4年生が14名、5年生が9名、6年生が6名、中学生が2名、計31名の応募で31名の参加であった。主な活動はテント泊、谷川体験、チャレンジハイク、夏野菜を収穫しそれを使って野外炊事などを行った。
<p>委員長 生涯学習課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 犬島ESDキャンプの方だが、このESDという冠は来年もつけるのか。また、ESDがつくということで活動内容に何か特徴があるのか。ESDがつかなくてもこの犬島のキャンプの内容は同じなのか。 ○ 来年度の開催はまだ決定していないが、ESD事業を継続することは大切なことであるので継続する方向で今後も検討していきたい。ESDの事業内容であるが、他の事業の場合、例えばESDの学びの時間などを1時間取っていたりするが、今回はそのような時間を取っていない。環境学習のサマースクールなどでしているように、学びの時間を1時間程度設け、学んだことを後で体験・実感するというやり方の方が効果があるのでは、という反省もあった。来年度はそういった工夫をしたと考えている。
<p>委員長 教育長 次世代育成室室長補佐 教育長 次世代育成室室長補佐 教育長 次世代育成室室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ESDで冠だけつけたのでは本当の持続可能な取組にはならないと思うが、ぜひ今後も続けてほしいし内容も検討してほしい。 ○ シェアリングネイチャーキャンプの31名というのは、募集は40名か。 ○ そうだ。 ○ 募集は40名したが、応募は31名しかなかったということか。 ○ そうだ。 ○ 以前は倍率が高かったのではないか。 ○ 昨年度のチャレンジハートキャンプの時は60名の定員に対し応募が220名あった。24年度は214名の応募があった。

<p>教育長 次世代育成室室長補佐</p> <p>委員長 教育長</p> <p>次世代育成室室長補佐 教育長</p> <p>委員長</p> <p>教育長</p> <p>委員長 次世代育成室室長補佐 委員長</p> <p>次世代育成室室長補佐</p> <p>委員長 教育長</p> <p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのあたりはどのように考えているのか。 ○ この事業は本来自然の家でしていたキャンプを教育委員会の方でやるということになって、3年間行った。3年経ったので元の形である委託事業でもらった。 ○ なぜ応募が220名から31名になったのか。 ○ 応募が二百以上あったのに、30しかなかったということについて、どのような分析をしているのか。 ○ こちらの方では十分な分析はできていない。 ○ 6泊7日という長期の方が希望者が多いというのは、それだけニーズが高いのではないか。3泊にすることによって減ったのではないか。それだけ長い期間、子どもたちを自然の中に入れ込むということに価値を見い出していたのではないか。 ○ そのあたりの検証が必要ではないか。広報が足りなかったのか、教育長が言うように長期でないから魅力が半減したのか。その分析をしないと来年度の事業に反映するにも難しいのではないか。 ○ 委託という難しさがあったのかもしれないが、子どもたちや保護者はそこにニーズを見い出していたのではと思う。 ○ 課の方で委託先とも協力しながら現状把握をしてほしい。 ○ 分かった。 ○ ジュニアオーケストラに行ったのだが、今回はバレエとのジョイントということでギャラリーが集めやすかったり行きやすかったり楽しみがあったりしたが、相乗りをすることで、準備過程や子どもへの指導などの苦労が随分あったようだ。一言感想を。 ○ 今回初の試みということでバレエが参加した。直前まで合同練習がなかなかできなかったりもしたが、バレエがあるということで観客にも視覚に訴えることができ、バレエの方も喜んでいたし、ジュニアオーケストラも多く観客が入り非常に良かったと聞いている。 ○ そういう活動をたくさん子どもたちに見てほしいと思った。 ○ ジュニアオーケストラの子どもたちもすごくよく頑張った。バレエの動きとオーケストラの動きと合わさないといけない。オーケストラ単体でしているときの速さと異なり、バレエの動きに合わせてスピードを時に変えないといけなかったそうだ。速すぎるとバレエが動けない。だから、オーケストラの子どもたちはそれに対応しきったということ。 ○ それはすごいことだ。小澤征爾さんが優勝した高校生とするときでも、やはり呼吸というかワントempoというか微妙なところがあった。それをジュニアオーケストラができたということは、すごいことだ。そのような裏話もどこかで教えてあげたら観る人も楽しめるのではないかと思った。
<p>7議事の概要</p>	
<p>委員長 委員長 全委員</p> <p>委員長 全委員 委員長 全委員 委員長</p> <p>全委員 委員長 スポーツ振興課長 委員長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は2名。入室してもらってよいか。 <承認> (この後、会の途中で、さらに報道1名の傍聴希望あり。全委員承認により、入室) ○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。 <承認> ○ 日程第2、8月定例会の議事録に問題はないか。 <承認> ○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) <承認> ○ 日程第4、報告第33号を報告願う。 ○ 説明(報告第33号の資料に沿って説明) ○ 質問、意見はないか。 ○ 確認だが、先日の指定管理者は2社合同だったと思うが、どこに決定したのだったか。

スポーツ振興課長 委員長 委員長 全委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 御津スポーツパークOSK・両備協同事業体に決定した。 ○ そこに債務負担行為決定ということか。 ○ 報告第33号を承認してよいか。 ○ <承認> ○ 報告第33号を承認する。
委員長 人事財務課長 委員長 塩田委員 人事財務課長 塩田委員 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 報告第34号を報告願う。 ○ 説明（報告第34号の資料に沿って説明） ○ 質問、意見はないか。 ○ 本年度分ということでよいか。 ○ そうだ。 ○ 具体的に委員会が開かれる予定はあるのか。 ○ 日程は未定だが、10月から11月にかけて第1回目を開催したいと考えている。
委員長 教育支援担当課長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人選も済んでいるということか。 ○ まだ検討中である。 ○ これから4回というと回数が多い気がするが、3月までにこれから4回開催するということか。
教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4回というのは重大事態が発生した場合を想定してのことで、1～2回、定例的なものを行うことになる。
委員長 委員長 全委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定例的なものだけで済むといいと思う。 ○ 報告第34号を承認してよいか。 ○ <承認> ○ 報告第34号を承認する。
委員長 指導課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日程第5、第26号議案を説明願う。 ○ 説明（議案第26号の資料に沿って説明） ○ 試行の段階と来年度のものと、違うところはないのか。部分的に違うところがあるのか。
指導課長 委員長 指導課長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 方法については今年度と同じである。 ○ 3回以上というのも同じか。 ○ 同じである。 ○ ここでいう土曜授業というのは8ページにある2の①（学校が行う教育課程内の学校教育）に限るとのことか。
指導課長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりだ。 ○ 27年度以降も検証しながら周りの情勢も見ながら変えていく可能性があるということだろうか。
指導課長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今、提案した形ですぐに変えるということではないが、いろんな諸条件等の変化があると思うので、そのような条件を見ながらということで考えている。 ○ 基本的に土曜授業が実施しづらい点として、8ページの3の教職員の勤務の振替など構造的な問題があると思うが、もし周りの変化から授業日を増やすということになったときにこういった体制的な問題は対応可能なのか。
指導課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振替等の部分についても検討しながらと思っている。 ○ これは指導課だけではないと思うが、県費負担ということで県の条例と絡むだろうが、学期に1回ずつやって振替の取りにくいのは例えば1学期が取りにくいのか2学期か3学期か、そういった実態はどうなのか。さっき言ったのは夏休みの個人懇談であるとか十年研修であるとか申請の研修であるとか言ったが、もう少し詳しく実態の説明をしてほしい。
指導課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏季休業中は長いようだが、やはり色々な行事などがあり取りにくい。 ○ もっとさっき言った構造的に。例えば教員に限って聞くが、前8週後8週内の振替か。
指導課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前が8週で後が16週である。 ○ 一般的にはその数字は取りやすくなったんだなという感じと、条例改正ができるのであれば県下全体で土曜授業を進めようとする時には岡山市から枠を広げるよ

指導課長	<p>うな要望もできるのでは。要望した結果8週16週なのかもしれないが。その辺りの構造的なことを教えてほしい。</p> <p>○ 以前、前4週後8週だったが、土曜日の授業ということを考えてこうなったと聞いている。</p>
委員長	<p>○ 何かしようと思うときに、この枠だからできないと捉えるのか、本当にこの事業がいいと思うから突破口、例えば何か改善とか改正するとかの必要もあるのかと思ひ、聞いた。普通に考えたら夏休みよりも冬休み春休みの方が振替は取りにくい。もう一つ言えば、土曜授業を7割の保護者がしたいと思っていたら、懇談会をどこに持っていくのがいいのか、夏休み前の授業日数をどう保障したらいいのか。給食の喫食数をどうしたらいいのか。総合的に考える必要があると感じる。負担増になってはいけませんが、勤務時間を超えてしまうということではなくて、まだまだ出来ることや工夫があるのではないかと思う。</p>
指導課長	<p>○ 先ほどの振替についてもそうだし、土曜日で時間数を増やすということではなく、学期末学期始め等で授業数を増やすということは考えている。ただ、土曜授業の目的としては、先ほど言った二つを特に強調してやっていきたい。地域や保護者の方と一緒にあって、学校に参加していただいて、学校や地域と一緒に子どもたちを育てるんだと、そういうところを随分言ってきたが、まだまだの部分もあると思うので、それを強化したい。そして土曜日があることによって、教育計画の上で今まで取り組めなかったことがほんの少しでも取り組めるのではないか。そういった二つを目指しているのだから、そこを強く出していきたい。</p>
委員長	<p>○ 土曜授業だけで今のことが解決できるわけではないし、土曜授業に代わる場所の工夫も合わせて考えないと、この保護者の7割の方が希望しているというのは、内容を何とかしてほしいとかいうことにも繋がっていると思う。</p>
奥津委員	<p>○ 中学校の部活動はパーセンテージが高いということだが、土曜日は中学校の先生はどうなっているのか。部活動をやっている間は学校に出ないのか。</p>
指導課長 奥津委員	<p>○ 部活動の顧問は出ているし、部活がない場合は勤務日ではないので出していない。 ○ では土曜日に必ず出る先生もいるだろうが、そういった方は振替などをしているのか。</p>
指導課長 奥津委員 教育長 奥津委員 天野審議監	<p>○ 部活動については、振替等はない。 ○ 手当の割増しか。 ○ わずかな手当がある。 ○ では授業をするとすると、若干違ってくるということか。 ○ 授業をするとすると、これは勤務するしかないわけだから勤務にする。勤務にするとなると振替をせざるをえない状況になっている。</p>
奥津委員 天野審議監 教育長 奥津委員	<p>○ 部活動は振替ではなくて手当が出るだけと。 ○ そういう整理でやっている。 ○ 休日出勤の部活動には手当が出るという整理。 ○ 小学校の場合は、1年生から3年生くらいまでは日ごろの授業は6時間ではないわけだから、授業日数を増やす必要性はあまりないかと思うが、中学校と小学校を分けて考えるというのはどうなのか。例えば、中学校はもう少し授業日数を増やしてみたらどうか。もちろん学力の問題についても全国学力テストの中で中学も問題点が多少はあるのかなというところがあるので、議論として中学校の土曜授業をもう少し成績の向上に位置づけてやるという考えを検討するというのはいかがか。</p>
指導課長	<p>○ 基本的にこの土曜授業の直接的なねらいを学力向上というところへ直に持っていきこうと思っていない。土曜授業については、学力向上は回りまわってついてくるものだと思っている。学力向上させる取組を土曜日にしましょうというねらいではない、という考えである。</p>
奥津委員	<p>○ 中学校の保護者からすると、土曜日に部活で学校に行くなら、午前中に授業をしてくればいいのかと思う親はかなりいるのではないか。そういった意味で小学校と中学校を揃える必要はあるのだろうかと思う。</p>
委員長	<p>○ そのあたりのこともあるが、今試行の段階で、例えばこういう授業をしたとか活動をしたとか地域の人とこういうことをしたとか少し例を挙げてほしい。</p>

指導課長	○ 一番多かったのは、特に二学期で今までもやっていた学習発表会や音楽会などの学校行事を土曜日に開催して土曜授業に位置付けて行うというところが多くあった。また、授業の中へ例えば親子活動というようなことを取り入れたり、地域の方をゲストティーチャーとして招いたり。また、避難訓練で、地域の方や保護者と一緒にやるといったことも取り組んでいる。それぞれの学校で特色を出そうとしている。
教育長	○ 学習発表会とか学校がそれまで普通の日をやったものを土曜日にもっていくことによって、どういう効果が出てきたのか。わずか3日だが、土曜日に学習発表会をもっていくことによって、今までやっていた時間が3時間空くわけだが、その3時間をどう使っていくかが新たな教育課程の課題になってくる。そこをしっかりと考えておかないといけない。学校もしっかり考えてくれていると思うが。ただ土曜日にもっていった、というだけではいけない。
委員長 指導課長	○ そのあたりはどうか。 ○ 全部の学校がうまくできているというわけではない。なかなか検証までできていない。ある学校では、担任とクラスの子もたちがテーマを設定して本音で語り合うとか、ある小学校では午後2時間くらい利用して子どもたちが提案をした各学級の取組をすとか、工夫をしている学校もたくさんあった。
委員長	○ 保護者からみたら土曜授業といったら数学や国語を土曜日にもってきてくれたらいいのではないのかということもあると思うので、そのあたりをこういう効果があるからそういう活動を土曜日にもっていったということ、引き続き広報していかないと本当の目的は伝わらないかもしれない。そのあたり、これは試行の段階ではあるが、教育委員会のホームページへ出ているのか。
指導課長 委員長	○ 具体的な取組例を載せているわけではない。 ○ 今後正式に事業を開始したときには、広報が必要かと思う。それとともに地域協働がらみで土曜日の授業をとということになったら、今の段階でいったら学校園に任せるところが大きいんじゃないかと思うが、本当のねらいをもう少し焦点化して示してもいいのかと思った。例えばこの間の市民文教委員会ででたことで説明を。
指導課長	○ 先日の市民文教委員会でこの土曜日授業を報告した。委員から出た意見は学校が5日制になって10年たつが、5日制の総括をもう少しするべきではないか。有意義に土曜日をすごしている子どもたちもいるが、そうではない子どもたちもいるのではないか。そのあたりに視点をあてるべきではないかということ。また、もっとダイナミックな取組が必要ではないかということも言われた。例えば岡山型一貫教育を推進していくために、土曜日に小学校は授業を公開しているが中学校はそうではなくて、中学校の教員や幼稚園の先生が見に行けるようにしたらどうかとか、各中学校区の学校にまかせるというのではなく、岡山市としてこれをするんだということを提示した方がいいのではないかという意見もあった。それから、土曜授業の中で、保護者や地域の方と子どもたちが、一緒に道徳の授業をしてほしいというものもあった。
委員長 塩田委員	○ これについて、いかがか。 ○ そのとおりだと思う。少し残念に思うのは、教育委員会で少しこれを練り上げたうえで市民文教委員会の意見を聞いたかった。自分自身が考えるのは、試行期間が2年間があって、8ページの3になるが、目的のところでは学校の教育活動を公開し保護者や地域住民の参加・参画を推進となっているが、これ自体を教育委員会として検証できたかと。実はその過程が今回は抜けていたのではないかと感じている。確かに話を聞いていると、土曜に3日増えただけで、学校と地域のつながりも深まったと思うし、この3日をどう使うかということでアイデアも生まれてきてすごく充実した内容になってきているというのは感じるが、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保できているかというのは、実際に先生たちに意見を聞かないと評価はできないのではないかと思う。せつかく2年、まだ途中だが試行してきて、検証をする時間がほしかった。指導課の考えではこの二つの目的を、どう評価をするのか
指導課長	○ 学校、保護者、地域との協働ということについては、うまくいったと思っている。いろんな取組、地域の方、保護者の方、今まで平日ではなかなか来られなかった

<p>委員長</p>	<p>が、土曜日にやったことで来られたという方も多くいるので、そこは進んだと思っている。それから、教育課程のゆとりというところは、それぞれの学校、教職員等が感じるまでには至っていないのが現実ではないかと思っている。</p> <p>○ 塩田委員が言ったことは自分も感じているが、思っているというだけで実態把握ができていないと、次の事業に踏み出せないと思う。資料の作り方として、9ページの土曜日の過ごし方の実態が平成25年度の全国学力学習状況調査のパーセンテージが出ているが、これも岡山市の小学校と中学校の比較は分かるのだが、全国的にみて岡山市の子どもたちは土曜日の午前中に部活動をたくさんしているのか標準的なのか少ないのか、家庭で過ごす時間がどうなのか、地域協働という事業をした結果、地域の人とふれあったりすることがどのくらい増えたのかとかいうことが、事務事業の検証には必要なのではないかと資料を見て思った。これだけでは、どこをどう比較するのか、ゴシック文字のところは多いんだなということしか分からない。全国と比較ができるのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 全国の比率は出ている。全般的には、全国とほぼ同じ傾向である。多少パーセンテージの上下はあるが、大雑把にいうと全国的に多いところは岡山市も多い。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 例えば、この文部科学省の調査項目にはないが、岡山市が地域協働を始めてかなりたつが、その地域協働の中で地域のことは地域に返すということが基本的にありと思うが、岡山市が地域協働学校を立ち上げたことで、そのあたりが充足したというような数値的なデータはあるのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 地域での活動が増えたデータか。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 地域での自己肯定感というか満足感というか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ それを示す資料は、調べてみないと分からない。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 新しい事業を試行から本格実施するためには、そういったところもほしかった。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 市民文教委員会でしっかり練って、新聞にも出して最後に教育委員会で決めるとなっているが、塩田委員が言ったように本当に3日でもいいのかこのやり方でいいのかというのを少し時間をかけて話し合う機会がほしかったということを私からも伝えておく。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 要は学校が3日以上ということなので、学校が判断すればこれより増やしても構わないということか。自分の学校はもっと授業に力を入れたいから土曜授業を増やすんだという判断を学校がした場合は、それはそれで構わないということか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 3日以上としているので、各学校で考えながらいくことになるが、当然こちらに相談してもらったり教育委員会とも話をしながらやっていきたいと思う。土曜授業のねらいは徹底させていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 目的はいいわけだが、実際の教職員の勤務の割り振りであるとか子どもの実態だとか、いろんなことが絡んでくるし、さっき言った教員は前8週後16週だが市の職員もいる。土曜授業をどういうとらえ方をして実行していくかについては、周りの条件整備が結構いるんだろうと思う。一概にいい事業だからどんどん行けとはいかなし、いろんな意見があると思うので、指導課だけではなくいろんなところで考えるとよい。部活動が出てくるので保健体育課も一緒になって考えないと難しくなる。教育企画総務課や人事財務課、保健体育課とか。極論を言ったら部活動を土曜日はなしにして岡山市の子どもは家庭で地域でということだって岡山市の方針として作れないことはない。ただ、いろんな条件整備ができないとうまく続かないし、実現しないことだろうと思う。だから土曜授業は、今後いろんな検証や条件整備を進めていって進めていく必要がある事業であると思っている。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 土曜日を子どもたちが今後どう過ごせばよいのかということで、8ページの2のところ土曜授業や課外授業などいろいろ言い方はあるが子どもたちが過ごす場をどう作っていくかということを考えていかなければいけない。その中で③のところなどは公民館でやっているところがいくつかある。PTAがやっているところもある。土曜日の午前中PTAで見るというところも出てきている。それから学校の方でセットしたというところもある。部活動含むとあるが部活動以外でやっているところもある。そういうところの中で土曜授業を今3日間という形だが今後増やしていくことが可能かどうか、増やすことに意義があるのかということを含めて考えないといけないだろう。先ほどのデータの中でテレビのところ</p>

	<p>どちらも20パーセント出てきているということになれば、その子たちは自分の居場所ではなくてテレビが相手になって過ごしている。他の日も含めて考えればたくさんいるのかもしれない。それらを含めて解決策を考えないといけない。奥津委員からはやれるところはやってはどうかと。やろうというのは可能だが、現実的に、昨年も3日以上取り組んだところはなかった。結局何がネックかという先ほどの点がネックになっている。そもそも土曜授業について自分の最初の発想が授業であるとか学力向上とは結びつけて考えていなかった。いかに子どもたちが過ごす場を充実させていくか、また教師にとってどういう意義があるのかを考えていく必要がある。例えば7ページの実施方法で年間3日以上1日あたり3時間、4時間以上も可となっているが、もしこれを一日勤務にすれば授業は3時間か4時間、勤務は1日。そうすると土曜日の午後、半日丸々先生の時間がある。それがベテランと若手の養成についてでも使えることにならないかと。そのあたりのことは工夫しだいでやってもらえるところはあるのか。</p>
<p>指導課長 教育長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例えば午後から職員の研修にあてたという学校もある。 ○ 学校としてどういうやり方ができるか、提案してもらえばいい。 ○ お弁当の日として、自分で作ったお弁当を持ってきて食べて午後からも授業をしたという学校もある。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本当に可能性がある土曜授業なので、いろんな方法が考えられる。居場所づくりで言えば、公民館をもっている生涯学習課との連携も必要だろうし、要は子どもが土曜日になんとなく一日が過ぎたというのは思考が深まったとも思えない。友達と思いきり遊んだならそれはそれで価値があるかもしれないけど、家でゲームだけとかスマホだけとかだったらマイナスの効果もあるだろう。そういう意味ではやはり土曜授業というのは、回数とかではなくて、この目的に沿っていくためには、地域協働学校とか岡山型一貫教育に結び付けて何かをするんだというのを示さないといけないのかなと思う。先ほどの市民文教委員会の道徳というのはなかなかいいことだと思った。単なる道徳の授業ではなくていろんなやり方がある。地域の方が応援に入ることもあるし、事業者の方が応援に入ることもあるだろうから、そういう意味では好事例を示すことが、まずはいるのではないかと。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土曜授業の目的二つに沿って考えた方向性を果たしてくれたらいいと思う。ただ、土曜授業だけでカバーできない部分を公民館や外部が担ってくれるよう促していくことも必要だろう。公民館の方と懇談した時に聞いたのだが、なかなか学校とつながりが取れないという悩みを抱えている社会教育主事もいて、そこへたまたま教育委員が来たから、そういう話題になって情報交換をした。教育委員会は、それぞれの施設を結ぶ要みたいな存在だと思うので、こういう施策を打ち出して真ん中に立って試行錯誤しながら学校をつないでいくといった役割をもつことができるのではないかと思う。
<p>奥津委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の上の子どもは私立で原則授業がある。週休2日が導入された頃は新鮮で、休みだから何かしようというのがあったかもしれないが、もう2日もいらんのではないかと。あって当然という人もいるだろうが。自分のことにあてはめると、土曜日は半ドンという形であった。土曜日の貴重さとか昼からの充実感とか、午前中は授業をして午後からは友達と遊んだり部活動をしたりと、学校生活の中で土曜日は特別な日というのがあった。ただ、構造的な勤務体系が決まっているため調整が難しいという面もあるし、現実問題としてこのくらいの形になるのが精一杯かとは思いますが、保護者の側としては7割がプラスに評価していて増やす方向で考えてもらいたいという意見も多いので、そういう視点も考えてもらえたらと思う。
<p>委員長 全委員 委員長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的が良くて本当にやる気があれば条件整備の突破口を探ってみるのも必要かと思う。先ほど塩田委員が言った公民館が全中学校区にあるというのは珍しいことなので、そのあたりの活用を考えられる。総合的にいろんなところの知恵を使って土曜授業が本当に中身があるものになるのかと思う。 ○ 第26号議案を承認してよいか。 <承認> ○ 第26号議案を承認する。 ○ 以上で、議案の審議は全て終了する。

傍聴の状況

報
一

道
般

3名
0名